

地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える

コミュニティ・スクール通信

岩手県教育委員会事務局
生涯学習文化財課 地域学校連携担当
〒020-0034 岩手県盛岡市内丸 10-1
TEL 019-629-6173
FAX 019-629-6179
E-mail DB0005@pref.iwate.jp

令和3年2月18日発行 第9号

特集：令和2年度県教育研究発表会特設分科会「コミュニティ・スクール(CS)」

文部科学省CSマイスター

国立大学法人宮城教育大学学長特別補佐（特任教授）

の ざわ よし てる
野 澤 令 照 氏 より



(1) 北上市教育委員会（村松主任指導主事・まちづくり部千田主任）の発表について



- ・CS導入に向けて、市として明確なビジョンをもっているのがよい。
- ・教育委員会とまちづくり部で連携し、推進検討委員会を月1回実施してきたことが推進につながっている。参考となる事例である。
- ・地域の方々や先生方に丁寧な研修を積み重ねている。行政として大事な役割である。

(2) 陸前高田市教育委員会（阿部指導主事・志田校長・村上PTA会長・白川コーディネーター）の発表について



- ・時間をかけて取り組んできたのがよい。形だけのCSの組織設置では動き出してから苦勞する。
- ・PTAが、保護者や地域住民の個々の自己実現、楽しめる場が必要という思いをもってCSに参画しているのが素晴らしい。
- ・CSの仕組みを活用した震災学習は全国的にも貴重な取組である。

(3) 教職大学院（川原教諭）の発表について



- ・高校へのCS導入という課題に対して、アンケート、分析、提案、そして解決策としてリーフレット作成まで取り組んでいるのが素晴らしい。リーフレットは先生方にとって参考となるものである。
- ・教師は、生徒の変容を見てやりがいを感じ、地域と連携した取組は必要なものと実感するはず。生徒の感想も聞き取ってほしい。

(4) 高田高校（森谷教諭）の発表について



- ・綿密な計画のもと、地域学校協働活動を展開していることが素晴らしい。無理せず、少しずつ改善する戦略がよい。CSとなることで、県内のよきモデルとなる。
- ・高田高校のように、高校は、学区にとらわれず、地域学校協働活動に関わる企業や団体等の関係者を巻き込むとよい。

(5) 西和賀高校（鈴木校長・本正副校長）の発表について



- ・「西和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑」が素晴らしい。誰もが学校を応援したくなるし、力を貸してくれるようになる取組である。
- ・テーマを絞り、次の話題を予告した上で熟議しているのがよい。学校運営協議会では、委員からの要望をただ聞くのではなく、具体的にどうしたらよいか共に考えていただくことが大事である。

※全国コミュニティ・スクール研究大会（栃木デジタルフォーラム）がオンデマンド配信（R3.2/26～3/26）されます。全国的な先進事例を学ぶことができます！どうぞご覧ください。
視聴希望の方は2/26までにフォーラムメルマガに登録が必要です。（「学びの未来」で検索ください。）

本通信は下記ホームページに掲載しています。（※ダウンロード可能）

岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。